

フォーマット

A部門

| | |
|---------|----|
| 肯定側第一立論 | 6分 |
| 否定側質疑 | 3分 |
| 否定側第一立論 | 6分 |
| 肯定側質疑 | 3分 |
| 肯定側第二立論 | 6分 |
| 否定側質疑 | 3分 |
| 否定側第二立論 | 6分 |
| 肯定側質疑 | 3分 |
| 否定側第一反駁 | 4分 |
| 肯定側第一反駁 | 4分 |
| 否定側第二反駁 | 4分 |
| 肯定側第二反駁 | 4分 |

準備時間：各チーム8分

B部門

| | |
|---------|----|
| 肯定側立論 | 6分 |
| 否定側質疑 | 3分 |
| 準備時間 | 2分 |
| 否定側立論 | 6分 |
| 肯定側質疑 | 3分 |
| 否定側第一反駁 | 4分 |
| 準備時間 | 3分 |
| 肯定側第一反駁 | 5分 |
| 準備時間 | 3分 |
| 否定側第二反駁 | 4分 |
| 準備時間 | 2分 |
| 肯定側第二反駁 | 3分 |

日本ディベート協会主催

第5回

JDA春期ディベート大会

日時：1999年3月27日 9時20分～

場所：神田外語大学四号館

ごあいさつ

日本ディベート協会の春季日本語ディベート大会は第5回を迎えることができました。臓器移植などでも「5年生存率」が成功の一つの目安とされますから、我々の大会も一つの区切りを迎えたことを祝っても良いかと思えます。そしてこれからさらに発展させていかなければならない責務を負っているわけです。

今年はA部門では北朝鮮との関係、B部門では陪審制度という決してやさしいとは言えない問題を取り上げています。大会に向けて作戦会議、資料調査、練習試合などを重ねてきた参加者の皆さんの努力をまず称えたいと思います。今日の大会で勝敗は出ますが、ディベートの意義や楽しみはここに至るまでのそしてさらに明日からの過程にあります。今までの過程を誇りにし、これからの過程をさらに進んでください。聴衆の皆様にもぜひディベーターの長い準備の過程を評価していただきたいと思えます。

長い準備の過程と同時に、もちろん今日の各試合の中での議論のやり取りにも注目しましょう。各チームは肯定側の第1立論やスピーチの一部、証拠資料は事前に準備していますが、それだけではディベートはできません。相手の反論を受け、どう自分たちの議論を守り発展させていくか。相手の議論にどう反論するか。尋問にどう対応するか。尋問での成果・不備をその後のスピーチで利用し取り返していくか。最後には試合全体を見渡して自分たちの正当性をどのように審査員や聴衆に提示できるか。興味は尽きません。

最後に、我々みんなが今日のディベートから様々なものを得て会場を後にできることを願っています。ディベートとはこういう風にやるのかという人もいるでしょう。立論の組み立て方や、反駁や尋問の仕方を学ぶ人もいるでしょう。日本と北朝鮮との関係や陪審制度について理解が深まったという人もいるでしょう。すばらしいスピーチに感動したという人もいるでしょう。〇〇チームのディベーターは格好良かった、でもいいじゃないですか。そういった理由でディベートに興味を持って勉強を始める人も歓迎しましょう。

井上 奈良彦

日本ディベート協会会長
井上奈良彦
(九州大学助教授)

論題

A部門：「日本政府は、北朝鮮に対し、より友好的な外交政策をとるべきである。」

(1999年前期JDA推薦プロポジション)

B部門：「日本は、刑事裁判に陪審制を導入すべきである。」

(1999年第四回ディベート甲子園高校生の部論題)

日程

| | | |
|--------|-------|-------|
| 開会式 | _____ | 9:20 |
| 予選第一試合 | _____ | 9:45 |
| 昼食 | _____ | 11:20 |
| 予選第二試合 | _____ | 12:15 |
| 予選結果発表 | _____ | 14:15 |
| 決勝戦 | _____ | 14:45 |
| 表彰式 | _____ | 17:30 |
| 終了 | _____ | 17:45 |